

【情報公開文書】

2020 年 9 月 15 日作成

Ver.1.0

研究課題名	肺葉切除高リスクの臨床病期Ⅰ期のうち手術中に縦隔リンパ節転移を認めた 非小細胞肺癌における縮小手術の可能性の検討
所属（診療科等）	長崎大学病院 腫瘍外科
研究責任者	永安 武（教授）
研究機関	この研究は長崎大学病院 腫瘍外科のみで実施します。
研究期間	2020 年 11 月 17 日～2025 年 12 月 31 日
研究目的と意義	診療ガイドラインにおいて、標準手術（肺葉切除）高リスクの臨床病期Ⅰ期 非小細胞肺癌の患者に対しては縮小手術（区域切除または楔状切除）を行う ことが勧められています。リンパ節転移を認めた場合は肺葉切除へ移行す るのが一般的です。その場合、もともと肺葉切除高リスクであるため、手術 関連死亡、合併症の増加、術後の QOL 低下などが懸念されます。そこで、 手術中にリンパ節転移を認めた肺葉切除高リスクの臨床病期Ⅰ期非小細胞肺 癌切除例における、肺葉切除および区域切除後の治療成績を比較評価するこ とで、適切な治療戦略の立案への手がかりとすることを目的とします。
研究内容	●対象となる患者さん 2001 年 1 月 1 日から、2016 年 4 月 30 日の間に、臨床病期Ⅰ期の原 発性肺がんに対して解剖学的切除（肺葉切除、または区域切除）を受けた患 者さんで、かつ病理組織学的にリンパ節転移を認めた方を対象とします。
	●利用する情報 診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検 査、呼吸機能検査）、画像診断結果、病理学的所見 本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の 「問い合わせ」までご連絡ください。
	●研究の概要・方法 上記のカルテ情報を用いて、手術中にリンパ節転移を認めた肺葉切除高リス クの臨床病期Ⅰ期非小細胞肺癌切除例における、肺葉切除および区域切除後 の治療成績を比較解析します。
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：永安 武（医師） 長崎大学病院 腫瘍外科 住所：長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095（819）7304 FAX 095（819）7306 【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除 く） 苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616

	受付時間	：月～金	9:00～17：00（祝・祭日を除く）
--	------	------	---------------------